

登録コード	UAB04600	開講年度	2026			
授業題目	文化情報論・社会学AR				担当教員	前田 豊
					副担当	渡邊 綾
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・5 時限	
			授業形態	演習		
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学					
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。				社会調査を自身の能力と責任において遂行することができる。	
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。				社会調査の過程で他者と協働することができる。	
	【人間文化学】人間文化学に関わる地域中核人材・研究者・教育者として備わっているべき高い倫理観を有する。				調査倫理を身につけている。	
(2)授業の概要	現代の地域社会に危機をもたらす諸課題の解決に結びつく実践的な調査研究を，企画・設計し，これらを実施・分析・集計をおこなうアクティブラーニングを経験することを通して，調査設計から実施分析を可能にする十分な知識と技術を習得する．このプロセスにより社会的課題についての多面的な理解を形成し，将来，自治体や組織の中で社会調査の実務を遂行可能な人材を育成する． 地方活性化，観光振興，多文化共生，環境，災害対策といった現代の地域社会の共通課題への問題意識をもとに，複数の学生で共同して調査研究のテーマを決定する．このテーマは，各自が専門とする修士論文のテーマとは異なるものとし，毎年ディスカッションの上決定する．調査方法論や調査倫理を踏まえた上で，調査方法の決定，調査企画と設計，仮説構成，調査票の作成，サンプリングないし対象者・フィールドの選定，実査，調査データの整理，量的／質的分析，以上に基づく報告ペーパーの作成などを行う．また，学部学生が行う調査実習に指導的な立場で連携することもありうる．本実習への参加のためには学部卒業レベルの推測統計学・多変量解析などの理解と，統計分析を実行できる能力を習得していることを必要とする．					
(3)授業計画	第1回：社会調査を用いた実習の概要について理解する 第2回：地域社会の現状と課題について知る 第3回：詳細な調査プランについてディスカッションの上，決定する 第4回：先行研究の精査と発表をもとに仮説を構成する 第5回：調査の企画設計と組織・自治体との連携についての注意を理解する 第6回：実施可能な調査票を作成する 第7回：調査票の試行と項目の精査改良を行う 第8回：調査実施に着手する 第9回：調査プロセスを進行させ，調査票の回収する 第10回：調査データの整理（コーディング，データクリーニング）の実施 第11回：基礎統計量を整理する 第12回：多変量解析の実施結果をもとにディスカッションを行う 第13回：補足データ収集についての調査活動を遂行する 第14回：補足データの整理と簡単な分析を行う 第15回：総合的な分析と成果のとりまとめを行う 定期試験なし					
(4)成績評価の方法	学生は調査の全過程に参加することを前提に，それらに必要なタスクを遂行した水準を評価し合計100%の評価とする．評価基準は得点率90%以上を秀，89-80%を優，79-70%を良，69-60%を可，59%以下を不可とする．					
(5)成績評価の基準	さまざまな種類の応用的な分析手法をもとに，オリジナルな仮説検証と必要な補足調査によって社会的に意義のある結論を導き，これを適切に発信する知識と能力が修得されていれば「卓越している」と評価する．同様に，さまざまな種類の応用的な分析手法を理解し，データに即して実践的な分析と考察を行い，その成果を適切に発信できる知識と能力が獲得されていれば「かなり上の水準にある」と評価する．重要な分析手法を理解し，それをもとに分析・考察を行って成果を発信できる能力が獲得されていれば「かなり上の水準にある」とし，これらのタスクが重大な瑕疵がなく最後まで実行できれば「その水準にある」と評価する．					
(6)事前事後学習の内容	実際の調査手法や分析手法・データ解析のプログラミングなどは，授業中には要点の解説を行うので，調査や分析を実施する前には，各自が事前に応用可能なレベルまで事前学習をしておくこと					
(7)履修上の注意	学部卒業レベルの推測統計学・多変量解析などの理解，および遂行能力を身に付けていることが望ましい．					
(8)質問、相談への対応	オフィスアワー，および（事前の appointments を取ったうえで）授業時間外に質問・相談に対応する．メールアドレスはymaeda076[at]shinshu-u.ac.jp					
【教科書】	指定しない．					
【参考書】	西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮．2019．『計量経済学』有斐閣． 大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋．2023．『最新・社会調査へのアプローチ 論理と方法』ミネルヴァ書房．					